志小安全・防災だより

H31.3. 11　No.46
安全・防災担当：早坂　潤

バスの運転手さん，見守り隊の皆様，いつもありがとうございます！

１日に，計画委員会が中心となり，日頃大変お世話になっているバスの運転手さんと，いつも子どもたちが安心して登下校できるように見守ってくださっている，くろしお見守り隊の方々に全校の子どもたちで感謝の気持ちを表しました。バスの運転手さんは，中学校の生徒の送迎もあるので，３時１５分からの開始時刻まで来ていただくことは大変ですがそれでも子どもたちの気持ちをくみ取ってくださり，全員が駆け付けてくださいました。計画委員会の子どもたちはこの日に向け，感謝の言葉を考えたり，交通安全のお守り一つ一つに心を込めて作ったりと一生懸命頑張っていました。

歩いてみると学校の周りの様子の変化に気付くことができます！

校地内では広くなった，校庭の一番端（南側）に立つと町の復興工事の様子がよく分かります。５年生の防災の授業のときに工事現場の方より許可をいただき，校庭を一周してみました。子どもたちは，防災庁舎の周りの様子が大分変わったことや杉林の間から見える廻館方面の道路工事の様子，その他，学校下の運動場の工事によって大きく変わった地形などに気付くことができました。また，子どもたちから「朝日館」の話や，前に“防災安全だより”に載せた人工的な大きな岩がどこにあったのかなどの質問をもらい，子どもたちなりに興味をもってくれていたことに嬉しく思いました。

※「朝日館」とは，１１８０年頃，東北地方に勢力を広げていた奥州藤原氏（平泉）の時代に，３代藤原秀衡（ふじわらのひでひら）の四男である，本吉四郎高衡（もとよししろうたかひら）が住んでいた館のことで，大雄寺の向かいの山に建っていたと言われています。「朝日館」は，本吉郡をおさめるための城であったと言われています。

さんさん商店街や防災庁舎の周りは，土地が嵩上げされ，景色も徐々に変わってきています。

学校下の運動場には，このような遊具が設置され，とても楽しそうです。工事もかなり進んでいます。

体育館前の道路を下っていくと，このような津波高標示が道路脇に新しく設置されていました。